

主体的に考え、高め合う子どもの育成

～子ども理解を基盤に、つながりに気づく学びをめざして～

摂津市立摂津小学校



Why

なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- 書く力をさらに高めるために、教科等との関連を生かした指導が必要だと感じていた。
- 全職員でベクトルをそろえ、主体的に高め合いながら研究を進めたかった。
- 各学年の取組みのよさを全体で共有し、活かすことに課題が見られた。

How

どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- カリキュラム・マネジメントを支える環境整備
- 「めざす子ども像」の再設定
- 評価規準を児童に分かる言葉で具体化
- 教科等横断的な指導に重点を置いた研修や研究授業、PDCAサイクルによる取組み

Change

どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 年間を見通してカリキュラムを編成したり、指導時数を意識して学習計画を立てたりすることができるようになった。
- PDCAサイクルへの意識が高まり、校内研修や日々の学年会の持ち方が変化した。
- 各学年で、既習事項や教科等との関連に目を向け、学習指導要領に立ち戻りながら教材を研究し、創意工夫を凝らした取組みが活発に行われた。
- 授業アンケートで、「新しい学習をするときに、これまでに学習したことや他の教科などで学習したことが役に立った。」と解答する児童が約87%になった。
- 児童が相手意識や目的意識を持って学び、学んだことをアウトプットする力を高めることができた。
- 地域の人的・物的資源を積極的に活用した取組みが進んだ。また、継続的な取組みを進めるために、取組み内容や連絡先等を学年ごとに一覧表に整理することができた。



主体的に考え、高め合う子どもの育成～子ども理解を基盤に、つながりに気づく学びをめざして～

摂津市立摂津小学校

1. カリキュラム・マネジメントを支えるための環境整備

- (1) 学校体制の見直し
- (2) 指導時数の見直しと学習時間の確保
- (3) カリキュラム表の改訂
- (4) 朝のモジュール授業の実施

2. 既習事項や教科等とのつながりを生かした授業デザイン

- (1) めざす子ども像の見直し
- (2) 教科等横断的な指導についての研修
- (3) 「めざす子ども像」に迫るための具体的な手立て
- (4) 学習指導案の見直し
- (5) 評価規準の具体化
- (6) カリキュラムの評価⇒改善⇒次学期のカリキュラムの見直し
- (7) 人・モノの活用

3. 既習事項や教科等とのつながりを生かした授業の実践

- (1) 既習事項や体験活動を生かし、書く力を高めるための取組み【第1・3学年】
- (2) 既習の言語活動を生かして、学びを深めるための取組み【第2学年】
- (3) 総合的な学習を柱に、他教科等との関連を生かした取組み【第4・5学年】
- (4) 他教科で学習したことを活用して学びを深める取組み【第2学年】
- (5) 重点目標を設定し、それに迫るための教科等横断的な指導【第6学年】

4. カリキュラム・マネジメント研究による成果と課題

- (1) 教師の意識改革
- (2) 教科等とのつながりを意識した授業づくりによる成果
- (3) カリキュラム表の改定、時数の見直しによる成果
- (4) 学年団での研究の活性化（70人力）
- (5) 今後の課題

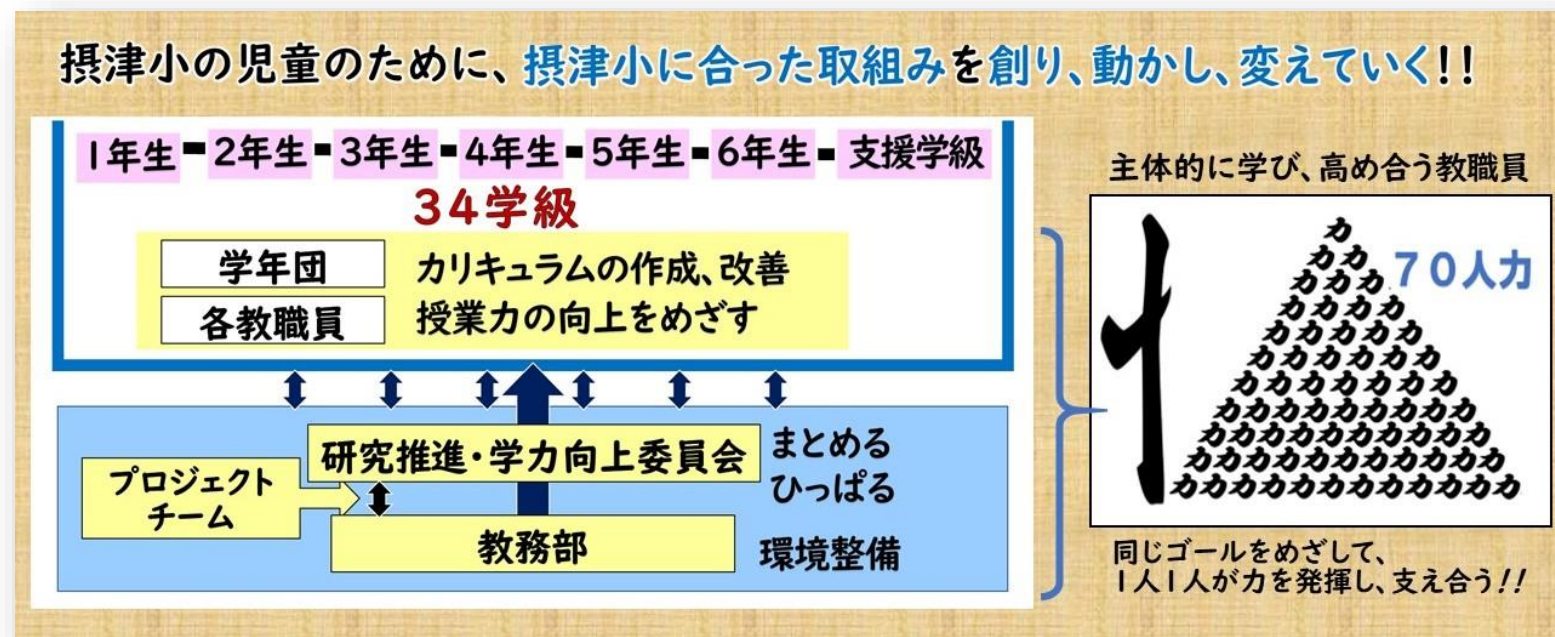
1. カリキュラム・マネジメントを支えるための環境整備

(1) 学校体制の見直し

34学級という大所帯を支えるために、学校体制を見直し、新たに教務部を設けた。教務部は、学校全体に目を向け、1年間のカリキュラムを見通しながら、提案をしたり各学年をつないだりする役割を担った。また、教務部の中に「研究推進・学力向上委員会」を置き、各学級の意見を吸い上げ、機動力を発揮できるようにした。さらに、校内研究の中心となってみんなをひっぱるプロジェクトチームを結成した。

教務部が環境整備をし、研究推進委員会が各学年をまとめ、研究をリードする。学年団では、研究を生かしてカリキュラムを作成し、学級担任などは、それを実践する授業力をつける。このように、それぞれの立場から、カリキュラム・マネジメントを進めた。

そして、まずは私たち自身が研究テーマである「主体的に学び高め合う」教職員集団になろうと、『70人カ』をスローガンに掲げ、子どもたちのために、1人ひとりが力を発揮し、高め合うことをめざした。



(2) 指導時数の見直しと学習時間の確保

1年間を見通したカリキュラム作成と学習時間の確保のために、まずは本校の年間指導計画や指導時数を見直すことから始めた。これまで、何にどのくらいの時間をかけていたかを洗い出し、1つの表にまとめながら、行事に多くの時間をかけ過ぎていたこと、カット時数が多すぎたことなどを改善していった。そして、各学年の月ごとの指導時数を明らかにし、カリキュラムを作成したり、見直しを持って指導を行ったりすることに役立てた。

また、予定時数と実施時数を比較できるような本校独自の時数集計表を作成し、実施状況を月ごとに全職員に示すことで、各学年が、時数管理をしながら学習計画を見直すことができるようにした。

日数	本	授業日数 や 総時数	カット時数	週当たりの教科時数、学校行事等の時数	行事内容の見直し	カット時数の見直し
1-5	1	8入学式【行前】				
10-12	3	8始業式【行前】 10給食スタート 11離任式【行前】 8-101年生2h 18全国学芸(6年)				
15-19	5	191年生参観 15-19日				
22-26	5	22第1年生参観スタート 23.26大規模修繕【行前】 24.25参観修繕 ※1年生用える会【毎】	25修繕-1 24修繕 カット時	1 25 24 26 25 28 30 29 29 29		
29-5/3	0	10連休	10連休	0 25 25 26 26 28 29 29 29 29		
7-10	4	7-10 学校参観 心算検定1年	7-10 学校参観		7	
13-17	6	13-17 学校参観、春の遠足 音楽会練習、17.3年交通安全教室			7	
20-25	4	20-25 交通安全教室 音楽会練習、25土曜参観 児童参観(10.5h)	3 25土曜参観-3	0 28 28 29 29 31 31 32 32 32 32		
28-31	5	28-31 音楽会練習 30-31日品科検定【行前】	月休み -6	1 20 20 21 21 22 22 24 24 24 24		
8-7	5	7不審者避難訓練【?】 7眼科検定		1 25 24 26 25 28 27 30 29 29 29		
10-14	5	10-14 風水害避難訓練【?】		1 25 24 26 25 28 27 30 29 29 29		

年	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動	教科計	特別活動等	総時数
I学期	予定時数	79	31	25	14	20	13	9	189	6	195
	実施時数	77	40	35	14	19	11	9	213	1	214
	差	-2	9	10	0	-1	-2	0	15	-5	10
	実施率	25%	29%	34%	22%	28%	13%	28%	26%	3%	29%
8月	予定時数	13	5	6	3	3	2	2	36	2	38
	実施時数	17	8	4	3	5	3	0	43	1	44
合計	予定時数	92	36	31	17	23	15	9	234	8	242
	実施時数	94	48	39	17	24	8	12	256	2	258
	差	2	12	8	0	1	-1	1	22	-6	16
	実施率	31%	35%	38%	27%	35%	16%	28%	31%	6%	37%
9月	予定時数	26	15	10	6	6	3	4	38	0	38
	実施時数	33	15	11	7	6	3	4	87	3	90
合計	予定時数	118	51	41	23	29	21	15	310	8	318
	実施時数	127	63	50	24	30	22	16	343	5	348
	差	9	12	9	1	1	1	1	33	-3	30
	実施率	42%	46%	49%	38%	44%	25%	38%	42%	15%	56%
10月	予定時数	40	20	9	8	9	22	3	7	7	7
	実施時数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔時数集計表〕

(3) カリキュラム表の改訂

教科等横断的な指導に役立てるために、カリキュラム表を改訂した。これまでは、学習内容を大きなまとまりで記していたが、学習内容がわかるような単元名に変更したり、教科書の単元名を全て記したりすることによって、1年間を見通し、他教科との関連を考えることができるようになった。また、学期ごとにカリキュラムを評価し改善するなど、PDCAサイクルでの取り組みに役立てることができた。さらに、単元の配列とともに時数を示すことで、月当たりの授業時数を踏まえながら、学習計画を立て、時数を管理できるようになった。

月	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動	学校行事等										
4月	あさ	2	1. なかまづくりとかず	7	いちねんせいになつたら	4	校歌、ドキドキトン1年生	2	かたちや いろを たのしもう	1	ゲーム-鬼道び-	4	みんなてのしく	1	学級開き・学級活動	4	始業式	0	
	えをみて はなそう・ひらがな	3			さかせてみたい な あさがお	4	さんぽ、リズム、手遊び	1	たのしいな おもしろいな	1	定・跳、器械・器具、ゲーム	4						内科検診	0
	さあ はじめよう・ひらがな	7																入学式	3
	書き	2																視力検査	1
どうそよろしく	2																	元	0
小計	#	#	#	#	#	#	#	#	#										
5月	あいうえおで あそぼう・ひらがな	3	*ここはにだしていおう!!	1	がっこうたんけん	7	スマイルコンサートに向けて	7	ずなや つちと なかよし	1	リ-固定練習-								0
	あさの おひさま	2	1. なかまづくりとかず	5	さかせてみたい な あさがお	2													5
	おほさんと おほあさん・ひらがな	2	2. なんばんめ	3															1
	かきと かき・ひらがな	3	3. いくつといくつ	3	じこしようかい	1													1
	国語	3																	0
ねこと ねっこ・ひらがな	3																		0
はじめてかいたなまえ	2																		0
はなの みち・ひらがな	6																		0
ふんを つくらう・ひらがな	5																		0
小計	#	#	#	#	#	#	#	#	#										
6月	おむすひ こみりん	6	4. あわせていくつ	6	まぜつとともたちーみなさんこにちば-	6	かたつむり	2	いろいろな かたちのかみから	4	目標・器具を使つての運動遊	4	おたん	1	学級活動	2	スマイルコンサート	2	
	おもいでして はなそう・ひらがな	2	4. いくつといくつ	2	さかせてみたい な あさがお	3	鑑賞	1	ひもも ねんど	2	リ-マホ-	6	みんな	1				0	
	おもちゃと おもちゃ・ひらがな	2	5. のこりはいくつ	7	ちがいはいくつ														0
	くちばし	8																	1
書き	3																	0	
たからものを おしえよう	4																		0
国語	4																		0
ひらがな	3																		0
小計	#	#	#	#	#	#	#	#	#										
7月	おおきく なつた	2	6. 10よりおおきいかず	9	さかせてみたい な あさがお	3	シンフォニックコンサート	2	おつて たてたら	4	水遊び	4	かつこうまでのみち	1	学級活動	3	終業式	1	
	おおきな かな	5																	0
	こんな ことを したよ	4																	0
	書き	2																	0
	好きな こと、なかに	3																	0
国語	2																		0
はをへを つかおう	2																		0
ほんは ともだち	2																		0
わけを はなそう	2																		0

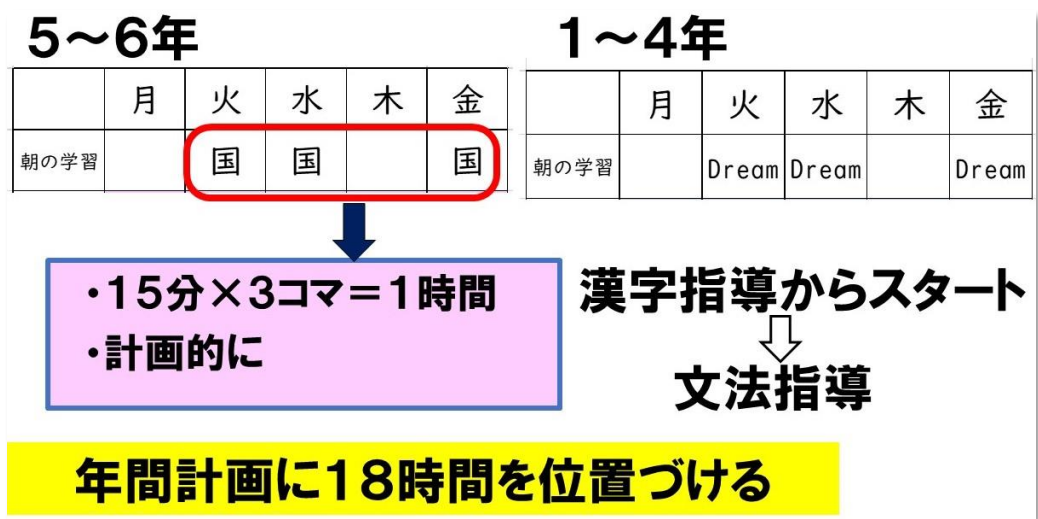
学習内容をより詳しく
指導時数を示す

1年間を見通し、つながりを生かした学習計画

時数管理をしながら、実施

(4) 朝のモジュール授業の実施

外国語の導入に伴って週当たりの授業時数を増やすのではなく、モジュール授業によって時数を確保し、これまでと同じ週29コマで行うことに取り組んだ。無理なく計画的に取り組めるように、行事等がなく児童が落ち着いて朝の学習に取り組める週を考え、18週分を年間予定に位置付けた。



2. 既習事項や教科等とのつながりを生かした授業デザイン

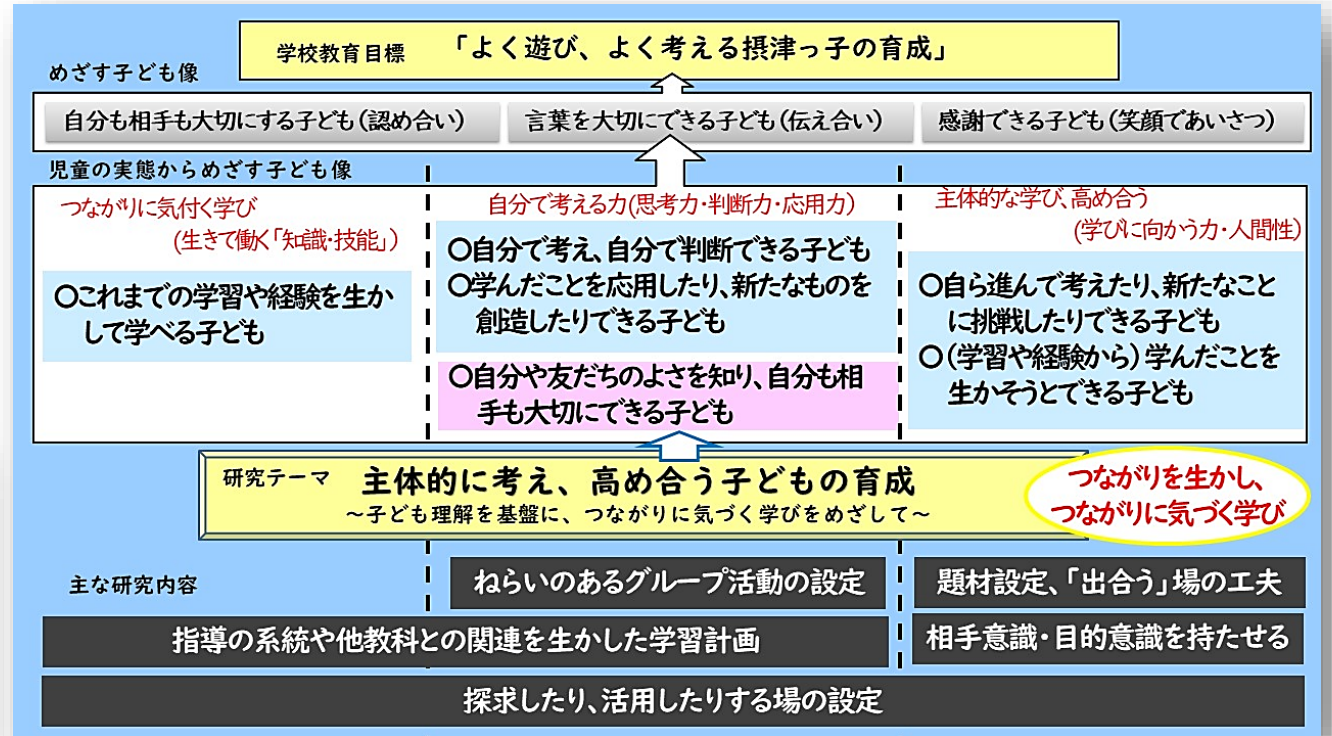
(1) めざす子ども像の見直し

本校の実態に合った取組みを進めていくために、まずは、本校の児童の「強み」と「課題」を全職員で十分に出し合い、新学習指導要領に示された「育成すべき資質・能力の三つの柱」に沿って、『めざす子ども像』を設定し直した。

【実施時期：5月】

摂津小の子どもたちの「強み」と「課題」

<p>「強み」</p> <p>素直で真面目 ⇒学習の場で経験したことを身に付けられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがあればできる。 ・指示されたことに、最後まで取り組める。 <p>家庭に見てもらえる。</p> <p>↑ 摂津小の強みは… やればやるだけ、力がつくこと。家庭に協力してもらえること。</p>	<p>「課題」</p> <p>型どおり ⇒指示されたことにだけで満足。 ⇒実生活では、生かされていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性、積極性 ・自分で考える力 <ul style="list-style-type: none"> ・集団としての力が弱い。 ・自分のことで精一杯。友達のことを知らない。 ・安心して話せない。
---	--



(2) 教科等横断的な指導についての研修

教科等横断的な指導に取り組む中で、既習事項や教科等と「つなげる」ことが目的になってしまう傾向があった。そこで、カリキュラム・マネジメントについて繰り返し研修し、

- 「めざす子ども像」や各教科の目標に迫るために、カリキュラムをデザインすること。
- 児童の実態を踏まえ、授業のゴールイメージやねらいを明確に持ち、それを児童と共有すること。
- 「つながり」を生かした学習計画を立てるだけでなく、それを評価し、改善点を見つけ、授業改善に役立てていくこと。

など、教科等横断的な指導のねらいやカリキュラム・マネジメントの進め方について確認し合いながら、取組みを進めた。
【実施時期：8月】

カリマネの進め方の共通理解

カリキュラム・マネジメント in 摂津小

「めざす子ども像」に向けて、これまでの子どもの学びを生かし、これからの学びをつくる。子どもの学びを評価しながら、よりよくする。

- めざす子ども像に迫るために、「つながり」を生かす。
- 『子ども理解を基盤』に、ねらいを明確に持つ。
- ゴールイメージを児童と共有する。
- 子どもの学びを評価し、よりよい学びをつくる。

学習効果の**最大化**

国語科
3時間

生活科
2時間

⇒**5時間分以上の効果**

(3) 「めざす子ども像」に迫るための具体的な手立て

「つながり」を生かした指導の効果を高めるために、その手立てについての研修を行った。

【手立て】

①まずは教師がつながりを意識する

②児童がつながりを意識できるようにする

- ・「見通し」「ふりかえり」の場の設定、改善
- ・ノートを活用

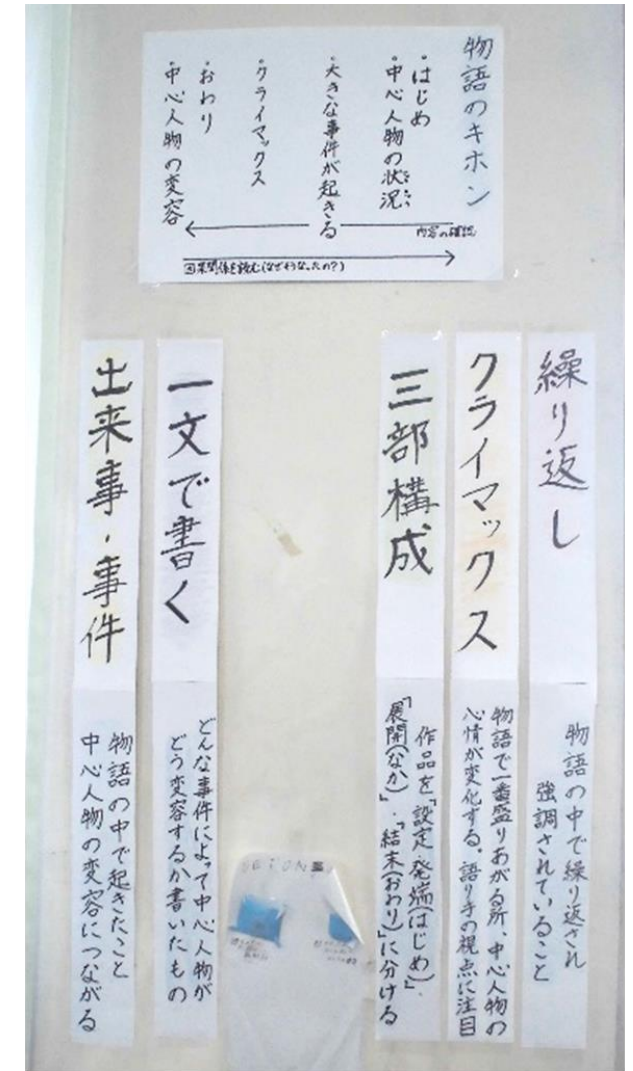
③つながりの「見える化」

- ・学習で使えるツールの掲示
- ・学習計画の掲示
- ・児童の作品やふりかえり等、学習の成果の掲示

④活用する場の設定 ⇒ [次ページへ](#)

【学習計画】											
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
紹介文を読み合おう。	すいこうした紹介文をもとに再度、文章を見直して書こう。	相手に応じた言葉を選んで自分の文章をすいこうしよう。	分かりやすく伝わりやすい書き方を知り、自分の文章をすいこうしよう。	紹介文を書こう。	タブレットを使って、紹介文にのせる写真や図、グラフ、表を見つけよう。	自分で伝記や偉人の本を選んで読もう。					今までの自分の生き方や考え方を振り返り、学習の見通しを持つよう。
											「百年後のふるさとを守る」を読み、伝記の特色や人物の考え方を読み取ろう。

(5年生)国語「百年後のふるさとを守る」学習計画の掲示



(4年生)国語「ごんぎつね」
学び方掲示

【手立て】

④活用する場の設定

- ・生活に生かす…学習と生活を意図的につなげた学習計画
生活とのつながり考える場の設定
- ・学習に生かす…他教科や行事等との関連を生かした学習計画
既習事項や他教科等における学びと関連付ける場の設定
「見通し」「ふりかえり」の場の工夫
- ・学びのアウトプット…調べたことを実践できる場や環境づくり
学んだことを伝える相手の設定
新聞、パンフレット、ポスター等の作成
他の人に発表する活動の設定
グループによる学び合い

学んだことのアウトプットを、つながりを生かした指導のゴールに設定することによって、児童が相手意識や目的意識を持って学習に取り組む、「書く」「説明する」「グループで相談する」などの言語活動が活発に行われるようになった。また、下級生に説明するために、子どもたちがアイデアを出し合ったり、何度も練習したりする姿を見て、教員から「これが主体的に取り組むってことなんだと思った」という声が聞かれた。



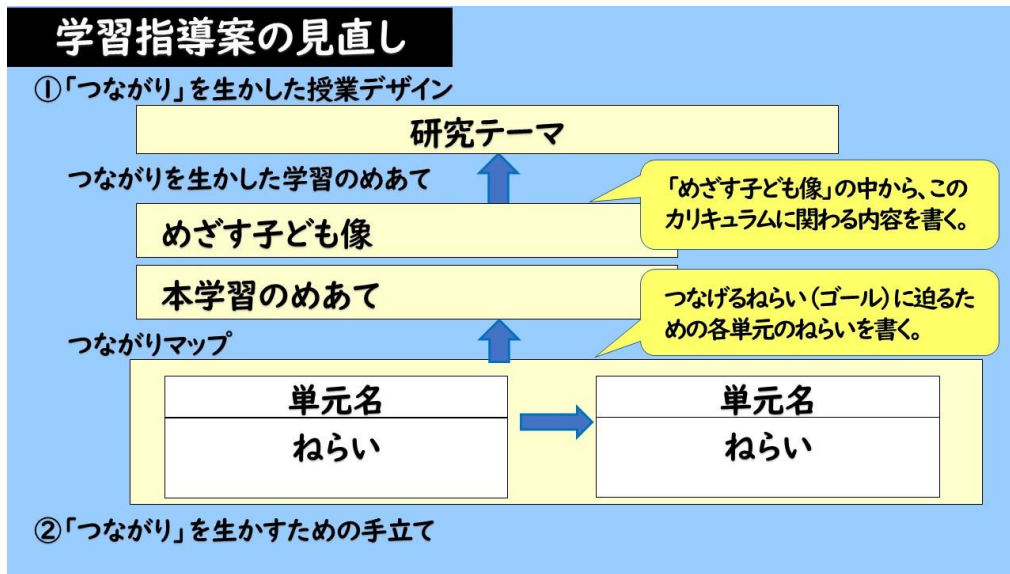
(6年生)国語「ようこそ、私たちの町へ」
～校区探検に行く3年生に、校区のよさを伝えよう!～



(4) 学習指導案の見直し

研究テーマや「めざす子ども像」により迫るために、「つながり」を生かした授業デザインを学習指導案に明記することにした。このことにより、何をめざして授業をデザインするのかを意識したり、このデザインをもとに成果や課題を評価し合ったりできるようになった。

【実施時期：7月】



年生

つながりを生かした指導のゴール

記入日： 年 月 日

教科・単元名			
単元目標			
評価規準			
	知識・技能	思考力・判断力・応用力	学びに向かう人間性
評価規準			
学習活動に即した具体的評価規準			

授業デザイン計画シート



(5) 評価規準の具体化

「めざす子ども像」や各教科の目標に迫るために、評価規準を児童に分かる言葉で具体化することに取り組んだ。この取り組みにより、教員自身が、児童の実態や各単元の目標、指導の系統などを踏まえたゴールイメージを明確に持つことをめざした。また、児童とめざすゴールを共有することにより、児童が主体的に学習に取り組み、自らの学びをふりかえったり、評価したりすることに役立てられるようにした。【研修時期：8月】

- ・教員自身が、単元目標や指導の系統をより具体的に捉えることができた。
- ・児童の実態を評価規準に取り入れることができた。
- ・既習事項や他教科との関連を踏まえて目標を設定することができた。
- ・児童とめざすゴールを共有することができ、学習への意欲を高めることにつながった。

2. 子どもの学びに役立つ「評価規準」をつくってみよう

STEP1 ○「学習計画」から「単元目標」をめざした「学習計画」へ「単元目標」と「評価規準」を明らかにしよう。

STEP2 ○まずは教師が「めざすゴール」をしっかりと持つ。
⇒「評価規準」を児童に分かる言葉で具体化しよう。

【評価規準】

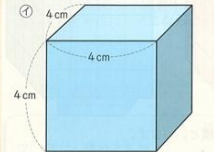
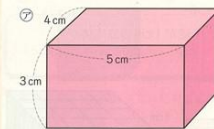
	イ 読む能力	ウ 書く能力
評価規準	○事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取っている。※ ○楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読んでいる。	○自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。
具体的評価基準	※何と何(「しごと」と「つくり」)が書かれているかわかる。 ※文章の中から必要な部分(「しごと」と「つくり」)を書き抜くことができる。	○「そのために」を使って「しごと」と「つくり」を関連させて書いている。



STEP3 1時間ごとのゴールイメージを持つ。

5年算数 体積

どちらの大きさが大きいかな。



【評価規準(GOAL)】

- ・直方体と立方体の大きさを表す方法を、長さや面積の学習と関連付けながら考えることができている。(長さや面積との違い、普遍単位)
- ・1cm³という単位がわかる。

【めあて】

- ・これまでに学習したことを使って、大きさを比べる方法を考えよう。

【評価規準(GOAL)】

- ・手際よく1cm³の数を数える方法として、公式があることがわかる。

【めあて】

- ・体積の「かわいい」求め方を考えよう。

かんたんで
わかりやすく
いつでも使える
いい考え

- ・ゴールにより迫るために、まずは教師がゴールイメージを持つ!
- ・児童がめざしたいと思えるような、「めあて」の内容、提示のタイミングを考える!

(6) カリキュラムの評価⇒改善⇒次学期のカリキュラムの見直し



学期ごとに、児童の姿から「つながりを生かした取組み（カリキュラム）」を振り返り、「ここがよかった」「こうすりゃよかった」と意見を出し合いながら「成果と課題」を明らかにした。

また、前年度の学年担任とともに次学期のカリキュラムの見直しを行い、各単元の学習内容をイメージしたり、前年度の成果を生かしたりできるようにした。
【実施時期：毎学期末】

年生	評価者：_	記入日： 年 月 日
実践のねらい・この実践を行った理由		
↓		
つながりマップ		
実施時期	必要な人・モノ	
必要な時間		
ここがよかった！こうすりゃよかった！		

研修で使用したワークシート

どのように取り組んだ？

(1) 1学期の取組みを子どもの学びとつながり方（カリキュラム）から評価しよう



- ① カリキュラム表に色や矢印を記入
- ② 「ここがよかった」「こうすりゃよかった」をワークシートにまとめる

2019年度年間カリキュラム【4年生】

月	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	体育	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動	学校行事等	
4月	漢字辞典の使い方 漢字の組み立て 書き 読み ばらばら言葉遊び 漢字の集 よみよみ探しあそびしよう	2 2 2 1 2 2	2 1 2 2	1 1 1 1 1 1	10 5 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	3 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1	2 1 0 0 1 1	2 1 0 0 1 1
5月	自分の考えを伝えるには 新聞 自分の考えを伝えるには 新聞	4 2 2 2 2	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3	3 3 3 3 3
6月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
7月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
8月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
9月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
10月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
11月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
12月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
1月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
2月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
3月	漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場 漢字の広場	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2

- ・学期ごとに指導計画を見直すことによって、より児童の実態を踏まえた計画に改善することができた。
- ・学期末に次の学期の見通しを持つことができ、長期休業中の教材研究に役立った。
- ・前年度の担任と一緒に計画を立てることによって、初めて担当する学年の学習内容のイメージを持つことができた。



カリキュラムの見直し

ここがよかった!

こうすりゃよかった!

(7) 人・モノの活用

児童の「主体的で深い学び」のために、体験活動や外部講師による授業などを積極的に取り入れた。

また、これまでに活用していた地域の人的・物的資源について、学年ごとに、「学習の実施時期」「単元や学習内容」「地域の資源」「協力を依頼する窓口」などを整理し、一覧表にまとめることで、さらに積極的に活用できるようにした。

【第4学年】

学期	教科等	単元名等・主な内容	人的・物的資源(窓口)
1	社会	ごみのゆくえ (環境センター社会見学事前授業)	摂津市環境センター
2	総合	ノーマライゼーション(当事者による講話)	講師 ■■■ さん
2	総合	ノーマライゼーション(ワークショップ)	人間科学大学 学生 (窓口)人科大キャリアセンター課
3	総合	国際理解	摂津市在日外国人教育研究協議会
3	総合	国際理解(コリアタウン見学) …フィールドワーク・伝統遊び体験	NGOセンター 講師3~4人 (窓口)コリアNGOセンター

【第5学年】

学期	教科等	単元名等・主な内容	人的・物的資源(窓口)
1・2	総合	『田植え』『稲刈り』…体験	摂津市農業委員 (窓口)産業振興課
1	総合	『非行防止研修』…出前授業	大阪府警察
2	総合	『大阪の農業と私たちの暮らし』 …出前授業	北大阪農業協同組合(JA)
2	家庭科	『わくわくマシン』…マシン操作の補助	摂津小サポーターズ
3	総合	『キャリア教育』…講話	摂津市青少年指導員 ■■■様(地域の方)
3	総合	『キャリア教育』…講話	せつつ幼稚園 若狭園長
3	総合	『キャリア教育』…講話	人間科学大学 学生(3名) (窓口)人科大キャリアセンター課 摂津市民図書館 担当:■■■様
3	総合	『キャリア教育』…講話	(窓口)市役所生涯学習課



【第4学年】ノーマライゼーション(当事者による講話)



【第5学年】稲刈り体験(地域の農業委員さん)



【第1学年】阪急電車出前授業



【第3学年】スーパー見学(摂津小サポーターズ)

3. 既習事項や教科等とのつながりを生かした授業の実践

(1) 既習事項や体験活動を生かし、書く力を高めるための取組み【第1・3学年】

【第1学年】既習事項や体験活動を生かし、書く力を高める

【第1学年】国語科『うみのかくれんぼ』—特別活動『秋の遠足』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

【めざす子ども像】①自ら進んで考えたり、新たなことに挑戦したりできる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- ・学習内容と実際に会う生き物を繋げて考えることで、説明文を進んで読んだり、図鑑や科学読み物で調べたりする意欲を高めることができる。
- ・事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら読み、さらに「なにが・どこに・どのように」を入れて書くことができる。

特別活動「秋の遠足(ニフレル)」(10月)

ねらい 様々な生き物に触れる中で、いきものそれぞれの特徴や暮らし方の違いに気づくことができる。

国語科「くちばし」(6月)

ねらい 説明の順序や内容を考えながら、「問い」に対する「答え」という構成の文章を読むことができる。

国語科「うみのかくれんぼ」(11月)

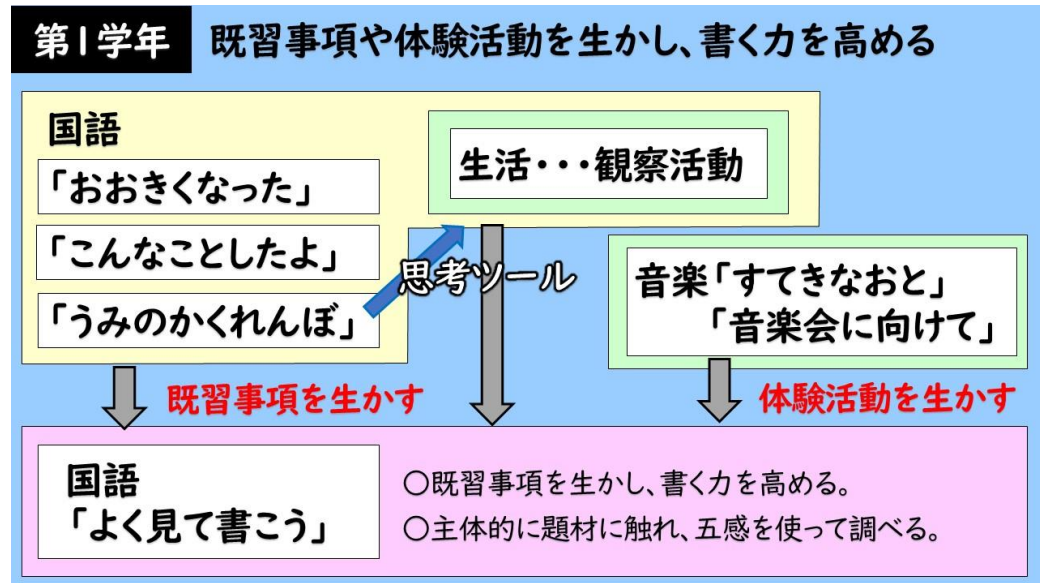
ねらい 事柄の順序や文章構成上の順序を考えながら読み、ニフレルにいる生き物について調べたことを「なにが・どこに・どのように」を入れて、「かくれんぼじてん」に書くことができる。

国語科「うみのかくれんぼ」は、「問い-答え」を繰り返す説明形式を学び、生き物について調べたことを事柄の順序等に気をつけながら、文を書く力を高めることを目標としている。児童が主体的に学習に取り組むことをめざして、この学習に特別活動「秋の遠足」を関連付け、水族館で出会った生き物について調べて生き物図鑑をつくることを学習のゴールに設定した。

また、国語科「くちばし」(説明文)で「問い-答え」の形式を学習したことを生かせるように、既習事項を想起しながら学習を展開したり、ワークシートを工夫したりするなどの手立てを講じた。



国語科「よく見て書こう」では、音楽科「すてきなおと」、特別活動「音楽会」との関連を図り、身近な楽器の音のおもしろさを感じながら、知らせたいものに対する愛着を書く意欲につなげることをめざした。また、5つの観点で書く材料を集め、整理しながら文章を書く学習を、生活科の観察活動に生かし、同じ形式のワークシートを活用しながら、5つの観点で題材をよく観察することに繰り返し取り組んだ。これらの学習の積み重ねと系統的な指導により、書く題材を詳しく調べて文章を書く力を高めることをめざした。



1年生 国語 「よく見て書こう」

音楽科「すてきな音」「音楽会」
体験活動「楽器調べ」

作文のたね短冊の活用

【体験活動を生かした学び】

- 音楽会で使ったり、見たりした楽器を実際に使うことで…
- 詳しく調べたいという意欲を持って、五感を使って書く材料を集めることができた。
- 楽器は、児童の興味・関心に合った題材であるとともに、何度も触り、詳しく調べられる。
- カタカナをたくさん使用することができた。

【第3学年】既習事項や体験活動を生かし、書く力を高める

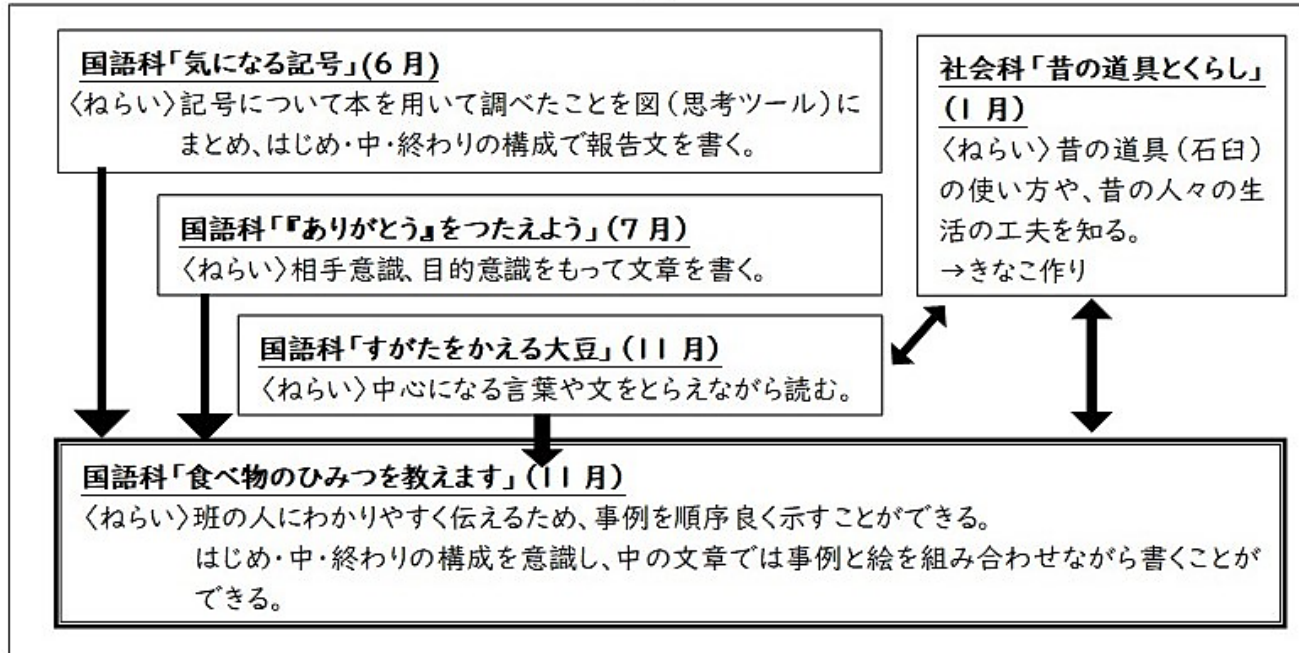
【第3学年】国語科『食べ物のひみつを教えます』-社会科『昔の道具とくらし』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

- 【めざす子ども像】 ①これまでの学習や経験を生かして学べる子ども
②(学習や経験から)学んだことを生かそうとできる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- 既習の文章の組み立て方の学習を生かし、事例をあげながら説明する文章を書くことができる。
- 実際に食材を加工する経験をもとに、同じ食材でも様々な食品が生まれていることに興味を持つことができる。
- 調べたことを友だちに伝えるという相手意識を持つことで、自分の学びを友だちの学びにしたいという意欲を高めることができる。



国語科「食べ物のひみつを教えます」は、題材として選択した食材がどのように「すがたをかえる」のかという、変化の仕方(おいしく食べる工夫)と変化の広がり(食品の種類)を説明する文章を書くことをねらいつている。児童が、食品が加工されている様子を想像することは容易ではないため、社会科「昔の道具とくらし」と関連付け、大豆からきなこになる過程を実際に体験した。このことにより、「食材」「おいしく食べる工夫」「食品」という観点をより理解し、すがたを変えていく様子を思考ツールに分類することに役立てることができた。

また、国語科「気になる記号」(書くこと)との系統的な指導により、前学年から使用していた「作文のたねカード」(書く題材を集める観点を示したカード)を継続的に活用するとともに、それを整理・分類するための新たな思考ツールについて学習し、自分の考えをまとめる力を高めることをめざした。

3年生 国語
「食べ物のひみつを教えます」

社会科「おかしな道具とくらし」
体験活動「きなこづくり」

思考ツールの活用

【体験活動を生かした学び】
きなこ作りを実際に体験したことで…

- 「すがたをかえる食べ物」を調べようという意欲が高まった!
- 「材料」と「食品」、「おいしく食べる工夫」という3つの観点を、全ての児童が理解して情報を集めることができた。

(2) 既習の言語活動を生かして、学びを深めるための取組み【第2学年】

【第2学年】 既習の言語活動を生かして、学びを深めるための取組み

【第1学年】 生活科『せつつ子どもゆうびんきょくをひらこう』—国語科『あったらいいな、こんなもの』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

【めざす子ども像】①自ら進んで考え、友だちとの関わりから学ぶことができる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- ・既習の言語活動を生かして、経験したことを振り返ったり、交流・共有したりすることにより、気づきを確かなものにすることができる。
- ・既習の言語活動を生かし、気づいたことや心に残ったことを工夫して適切に表現する。

国語科「あったらいいな、こんなもの」(9月)

ねらい
考えたものを相手にわかるように説明したり、それを聞いて感想をいったりできる。
(話す・聞く・話し合う)

国語科「動物園のじゅうい」(9月)

ねらい
手紙を書く楽しさを知り、物語の登場人物に伝えたいことを、時間や順序に気をつけて、**初め**—**中**—**終わり**の構成で手紙に書くことができる。

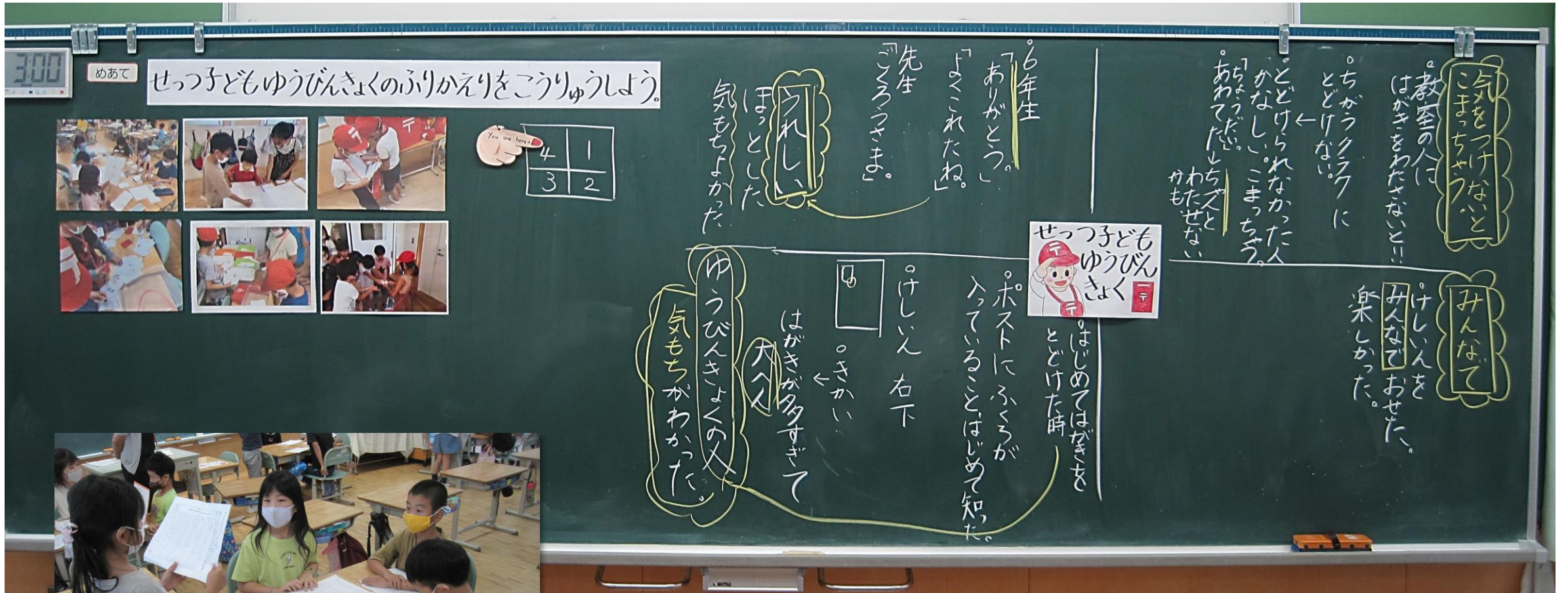
生活科「せつつ子どもゆうびんきょくをひらこう」(10月)

ねらい
「せつつ子どもゆうびんきょく」での気づいたことや心に残ったことを交流・共有することにより、自分の中で気づきを確かなものにしたり、新たな気づきが生まれたり、様々な気づきに関連付けられたりする。

生活科「せつつ子どもゆうびんきょくをひらこう」では、郵便局見学を生かし、実際に郵便局員になって働くことにより、身近な社会等を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えたり表現したりすることをめざした。

そこで、国語科の5つの観点で書く題材を集め、「はじめ・中・終わり」の構成で文章をまとめる学習を生かし、気づきカードやふりかえり文を書きながら、気づいたことを自覚するための取組みを重視した。





また、国語科「あったらいいな、こんなもの」で学習した話し方、聞き方、話し合い方などを生かし、一人ひとりの気づきを表現することによって確かなものにするとともに、交流することで他の児童と共有し、新たなことに気付いたり、様々な気づきを関連付けたりできるようにした。

(3) 総合的な学習を柱に、他教科等との関連を生かした取組み【第4・5学年】

【第4学年】総合的な学習を柱に、他教科等との関連を生かした取組み

【第4学年】総合的な学習『ノーマライゼーション』-国語科『だれもが関わり合えるように』-社会科『安全なくらしとまちづくり』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

【めざす子ども像】①自ら進んで考えたり、新たなことに挑戦したりできる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- ・体験活動を行う中で自分が興味・関心をもったことを調べようとする意欲をもつことができる。
- ・既習事項から身近にあるものを多様な観点でとらえ、自分の考えを発信することができる。

総合的な学習「ノーマライゼーション」(11月)

ねらい 違いを認め合える集団作りを方針に様々な人が生活していることを知ることや受け入れることをめざし、体験活動を行う中で自分たちの生活に活かせるようにする。

国語科「だれもが関わり合えるように」(11月)

ねらい
・ノーマライゼーションの学習から関心のあることを選び、必要なことを調べて要点をまとめることができる。
・理由や事例を挙げながら、筋道を立てて話すことができる。

社会科「安全なくらしとまちづくり」(11月)

ねらい 自分たちの身の回りにある安全を守るための工夫についてノーマライゼーションの観点からまとめることができる。

総合的な学習「ノーマライゼーション」では、点字や車椅子、アイマスクの体験活動を生かし、自分で課題を決めて調べ学習を行ったり、国語科や社会科で学習したことを相互に関連付けながら、自分の考えを持ち、他の人に発信したりする学習を行った。社会科「安全なくらしとまちづくり」では、ノーマライゼーションの観点からまちづくりの工夫を考え、自分の考えを深めたり広げたりできるようにした。また、国語科「だれもが関わり合えるように」では、理由や事例を挙げながら筋道を立てて説明する方法を学び、自分の考えの発信に役立った。



【第5学年】総合的な学習を柱に、他教科等との関連を生かすための取組み

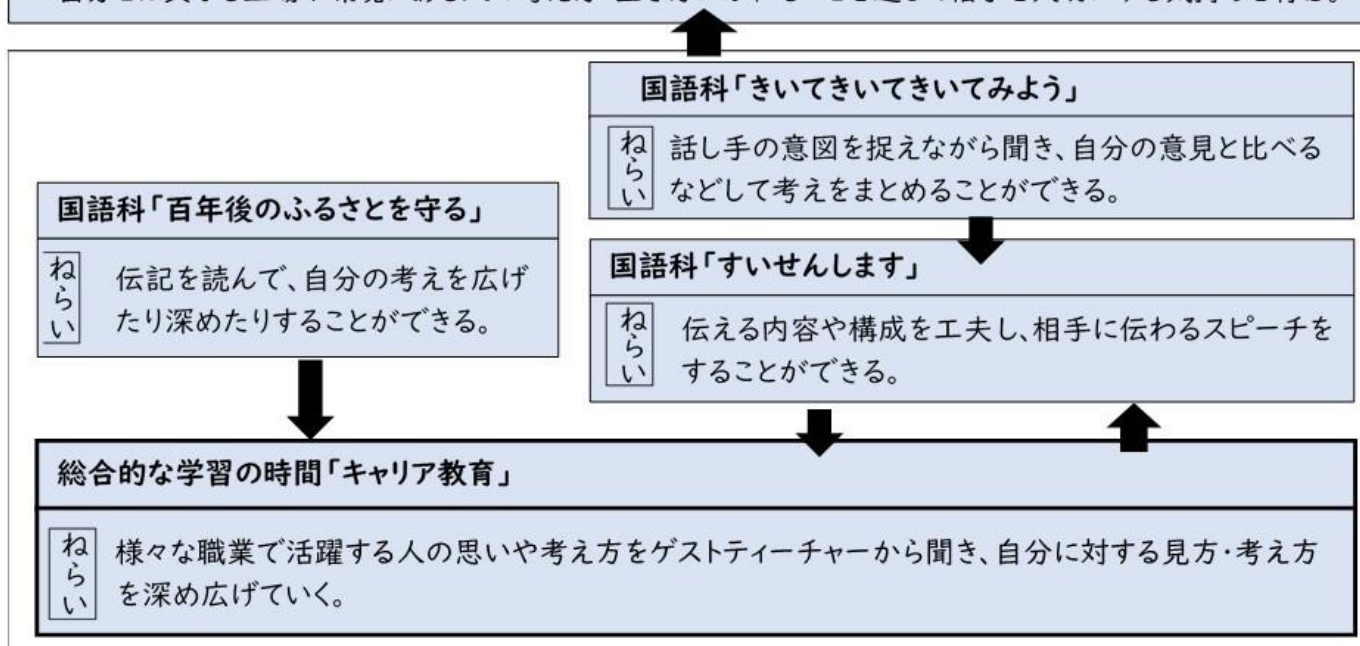
【第5学年】総合的な学習『キャリア教育』-国語科『百年後のふるさとを守る』-国語科「すいせんします」

① 「つながり」を生かした授業デザイン

【めざす子ども像】①自分や友だちの良さを知り、自分も相手も大切にできる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

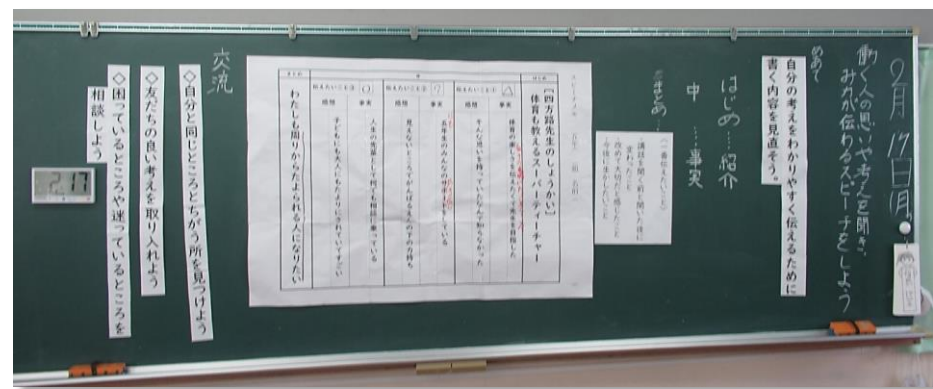
【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

・自分とは異なる立場や環境にある人の考え方・生き方にふれることを通して相手を大切にできる気持ちを育む。



総合的な学習「キャリア教育」では、自分で課題を決め、ゲストティーチャーからの講話をもとに収集した知識や情報から自分の考えを持ち、相手に伝わるスピーチをすることをゴールに設定した。

そこで、国語科と総合的な学習の時間のスパイラル学習により、相手の意図を捉えたり、箇条書きでメモしたりしながら話を聞き、事実と感想、意見とを区別しながら話の構成を考えることを通して、自分の考えを確かなものにしたり、他の人のスピーチから考えを深めたりできるようにした。



【第5学年】総合的な活動を柱に、他教科等との関連を生かした取組み

【第5学年】総合的な学習『米作り』-社会科『米作りのさかんな地域』-家庭科『食べて元気に』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

- 【めざす子ども像】①自ら進んで考えたり、新たなことに挑戦したりできる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- ・社会科で学んだことを田植え体験に生かし、田植え体験で経験したことも取り入れてお米新聞を作ることができる。
- ・米作りに関わる農業委員から直接話を聞くことで、自分自身の考えを深めることができる。

社会科「米作りのさかんな地域」(5月)

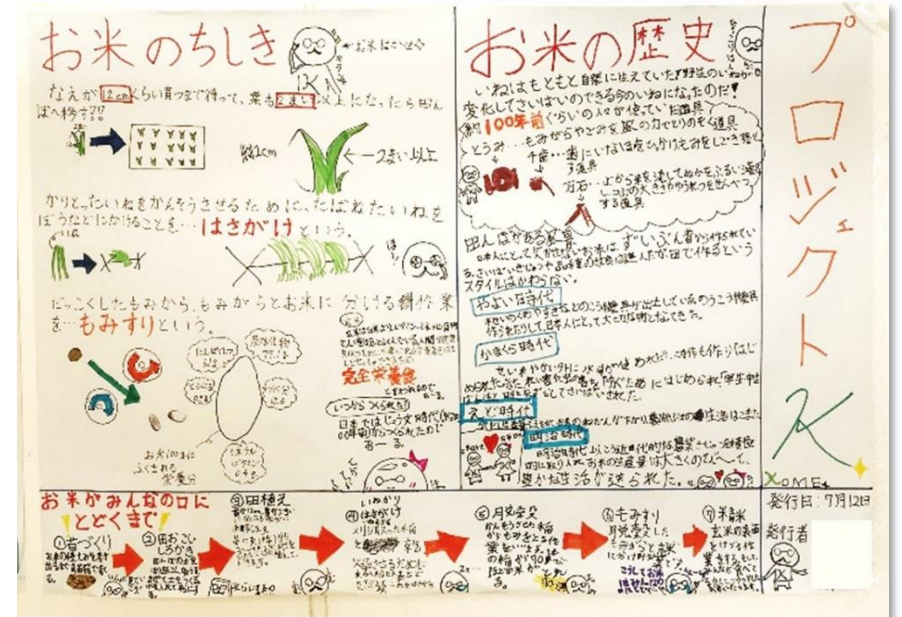
ねらい
米作りに関わる人々の思いや工夫を知り、実際に体験してみたいことを考えることができる。

家庭科「食べて元気に」(6月・11月)

ねらい
林間学校に向けて、米作りの調理方法を知ることができる。
自分たちで収穫したお米の炊きあがる様子を観察し、おいしく作ることができる。

総合的な学習の時間「プロジェクトK～米作り～」(5月)

- ねらい
- ・他の人に自分の学んだことを分かりやすく伝えようという意欲を持ち、社会科で学んだことや田植え体験から必要な題材を選び、新聞にまとめることができる。
 - ・国語科の「新聞を読もう」で学んだことを生かし、写真や絵、図、表を用いて新聞を書くことができる。
 - ・社会科の学習や田植え体験を通して、お米のことをよく知ることができる。



(5年生)社会科「米作り」-総合「田植え」



(5年生)総合「田植え」…5月



(5年生)総合「稲刈り」…10月

【第5学年】総合的な学習を柱に、他教科等との関連を生かした取組み

【第5学年】総合的な学習『防災教育』-理科『流れる水のはたらき』-国語科『百年後のふるさとを守る』

① 「つながり」を生かした授業デザイン

【めざす子ども像】①自ら進んで考えたり、新たなことに挑戦したりできる子ども
②これまでの学習や経験を生かして学べる子ども

【本学習のめあて(ゴールイメージ)】

- ・地震や津波、洪水から身を守る方法について、主体的に自分で調べる内容を決め、調べたりまとめたりする活動を通して伝えたいという意欲を高めることができる。
- ・調べたことを相手意識や目的意識をもち、グループのメンバーと協力してわかりやすくまとめ、発表することができる。

理科「流れる水のはたらき」(11月)

ねらい 川の水の量が増えると土地の様子はどのように変わるのか調べ、災害を防ぐためにどんな工夫をしているのかを知る。

国語科「百年後のふるさとを守る」(11月)

ねらい 事実の説明や筆者の考えが書かれている部分を区別しながら伝記を読む。

③総合的な学習の時間「JTK～自分たちからのトランスミッション(発信)」(11月)

ねらい 地震や津波、洪水から身を守る方法について、調べたりまとめたりする活動を通して3年生にまとめて伝えるという相手意識や目的意識をもち、発信することができる。

【児童の声】

- ・理科で学習した災害をくわしく調べて、被害を防ぐ方法があることがわかった。
- ・調べたことを低学年に伝えるために、伝える内容や新聞の書き方を工夫できた。



(5年生) 総合「防災についての調べ学習」-理科-国語
～摂津小の下級生に、学んだことを伝えよう!～

(4) 他教科で学習したことを活用して学びを深める取組み【第2学年】

(2年生) 国語「観察名人」—生活「トマトの観察」—算数「長さ」



生活科「ミニトマトの観察」



高学年が調理で使った野菜調べ



算数「長さ」…野菜の長さ調べ



国語科の5つの観点で書く材料を集める学習を生活科の観察活動に生かすために、同じワークシートを使用するなどの手立てを講じ、学んだことを活用していることに児童自身が気付けるようにした。また、算数「長さ」の学習を生かし、ミニトマトの成長をものさしで長さを計って調べることも取り組み、学んだことを生かせる楽しさを味わえるようにした。

国語科「スイミー」における場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る学習を生かし、想像力を働かせながら海の中の世界を絵に表現することに取り組んだ。国語科「スイミー」の学習と並行して図画工作科の作品づくりに取り組んだことで、読みの深まりとともに海の生き物がどんどん増えていき、教室に「スイミーの世界」が広がっていった。



(2年生) 図工『スイミーの世界』—国語『スイミー』

(5) 重点目標を設定し、それに迫るための教科等横断的な指導【第6学年】

Action!

もし、1人のとき災害がおこたら

<p>災害が起きたときの連らくのしかた</p> <p>伝言×云 → (東日本大震災) (生活) (活)</p> <p>災害時に相手に連らくできる確率は、(42%)と半分以下です。なので、伝言×云が役立ちます。</p> <p>避難をする際に家屋に伝言×云をします。</p> <p>指定避難所の伝言板を使用する。</p> <p>⇒伝言×云を書いたりすると、はぐれている相手などに伝わるかもしれません。</p>	<p>～高れい者が1人である時の問題～</p> <p>Q 1人ぐらしの高れい者</p> <table border="1"> <tr> <td>1980年</td> <td>約195万人</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>約197万人</td> </tr> <tr> <td>2025年</td> <td>約230万人</td> </tr> </table> <p>男性 女性</p> <p>約69万人 約341万人</p> <p>約490万人</p> <p>年々増えている</p> <p>今のくらしにまん足している高れい者が多い</p> <p>たよれる家族や知人がいない</p> <p>家族こい、しよたと安心する</p> <p>高れい者や障害者は、ふつうの人よりひなんするのが難しい人もある。ふつうの人より死亡率が2倍も高い。(災害時)</p> <p>1人で食事するから(さびしくこい)なりがち</p> <p>1人だと食事の栄養に気がつかなくなる (ひなん所でも同じ)</p> <p>食事 いかにい</p> <p>伝言×モノのけい示板をつくる。</p> <p>家族のかわりに相手にする。</p> <p>Action!</p>	1980年	約195万人	2010年	約197万人	2025年	約230万人
1980年	約195万人						
2010年	約197万人						
2025年	約230万人						
<p>1人暮らしの時災害に困ること</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーが近くにあってほしい。→近くにないと楽だから。 ストックが少なく食料やトイレトパーが足りなれ。 ドライブが守られるか心配。 ひなんじでは、学ようバランスがし、かりとれない。→野菜があまりないから。 	<p>地震が来たとき1人のときどうする?</p> <p>地震が来たとき1人のとき近所の大人と一緒にひなんする。</p> <p>⇒1人では心細いから</p> <p>大地震が来たとき津波が来るとして高い場所へひなんする。</p> <p>地震が来たときは、家具がたおれると考える。</p> <p>⇒机の下にかくれる。</p> <p>まず自分家族を守る。(自助)次に地域の人を守る。(共助)</p> <p>自分だけのことを守るのではなく(周り)のことも考えて行動する。</p>						

(6年生)総合『防災教育』～様々な視点から防災を考えよう～

第6学年の児童のよさや課題から、様々な立場や視点から物事を多面的・多角的に見たり、考えたりしながら、自分にできることを行動に移す力を高めることを学年の目標とし、「視点にこだわりを持って!」「Action!」の2つを合い言葉に、年間のカリキュラムを作成した。

総合的な学習「マイクロアグレッション」では、社会科「憲法とわたしたちの暮らし」と関連付け、外国の人々の視点に立つて、日本の選挙制度や暮らしを考える学習に取り組んだ。

また、総合的な学習「防災教育」では、社会科「災害からわたしたちを守る政治」や総合的な学習「マイクロアグレッション」との関連を図り、どのような立場の人々の視点に立って考

えるかを明らかにし、身近な災害や防災についての調べ学習を行った。

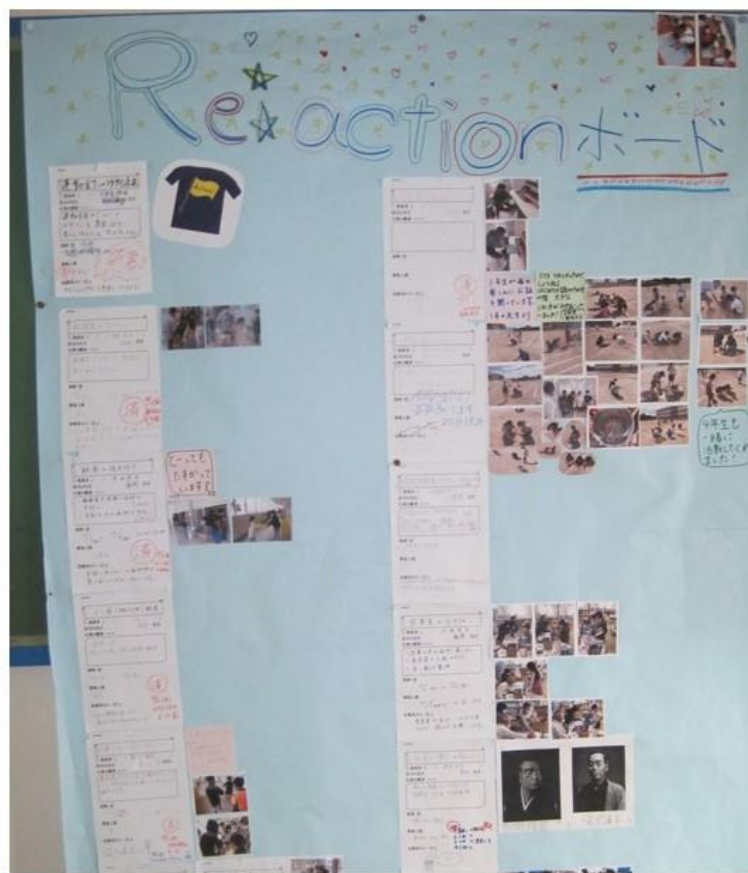
また、考えをまとめ、ワールド・カフェの形式で意見交換をし、自分の視野を広げたり考えを深めたりすることに役立てた。



(6年生)総合『防災教育』ワールド・カフェ



(6年生)総合『キャリア教育』Actionボード
～学校のためにみんなでAction!～



(6年生)総合『キャリア教育』Reactionボード
～「6年生ありがとう」下級生や先生からのReaction～

国語科「私たちにできること」では、新型コロナウイルス感染対策のために行事が中止となったり、行動が制限されたりする中で、自分たちにできることを考え、学校への提案書を書くことに取り組んだ。

総合的な学習では、「Action!」をテーマに、国語科で作成した提案書を他の学年に発信した。また、提案書が役立っていたのかを分析し、最高学年としての自分たちができることを改めて考えるなど、PDCAサイクルを意識した取り組みを進めた。他学年の児童や教職員からのリアクションボードを設置し、自分たちの実践の評価に役立てることに取り組んだ。



4. カリキュラム・マネジメント研究による成果と課題

(1) 教員の意識改革

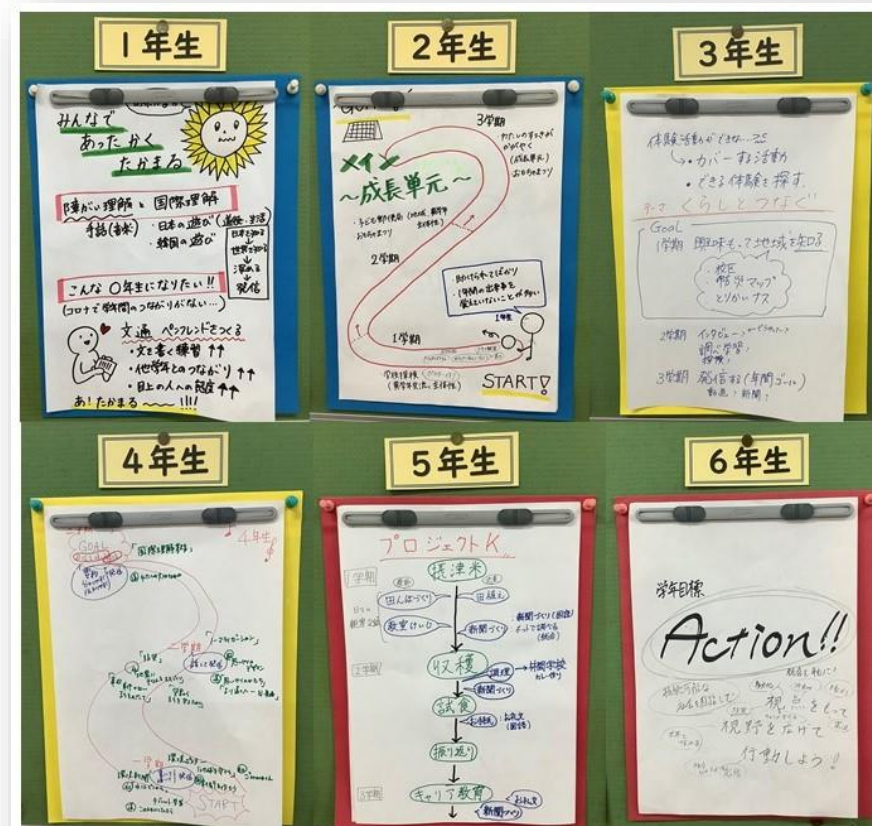
カリキュラム・マネジメントの研修を通して、教員自身の学習指導に対する意識が変化したと言える。

○新学習指導要領について研修し、学んだことを生かしてカリキュラム・マネジメントに取り組むことで、「単元の学習内容を身に付けさせる」という考えから、めざす子ども像をふまえ、「児童が何ができるようになることをめざすのか」という考えで、教材研究をすることができるようになった。

○1つの教科や単元で指導するのではなく、他教科等の学習を生かして指導することが効果的であると共通理解でき、積極的に教科等横断的な指導に取り組むことができた。

○つながりを生かすために既習事項を想起させたり、単元のゴールを児童と共有するためにめあての提示の仕方や学習の見通しを持たせるための掲示物の活用したりすることに、意識的に取り組むことができた。

○各教科の目標をより理解する必要性を感じ、学習指導要領に立ち戻りながら教材研究を行うようになった。



【職員室見える化ボード】「各学年のカリ・マネイメージ」

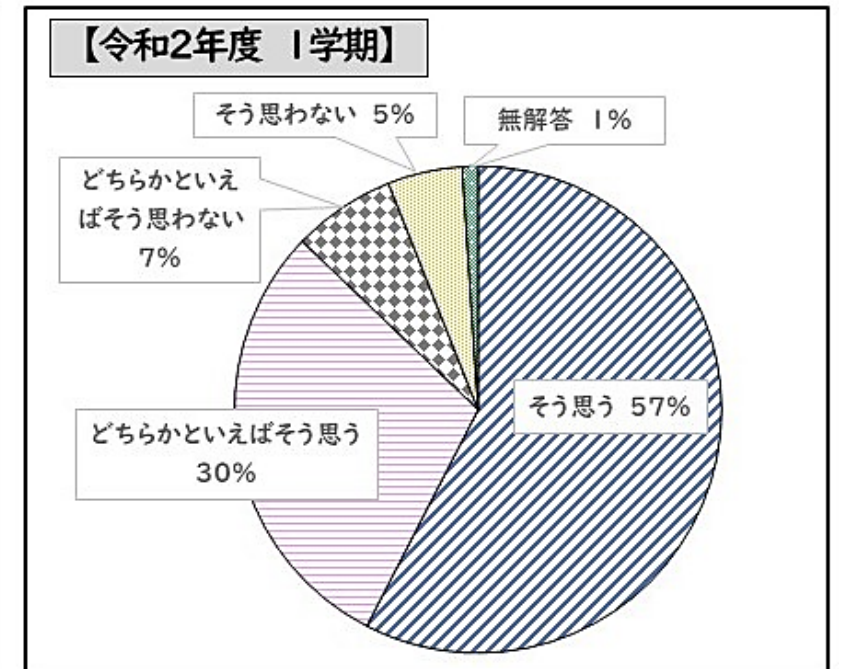
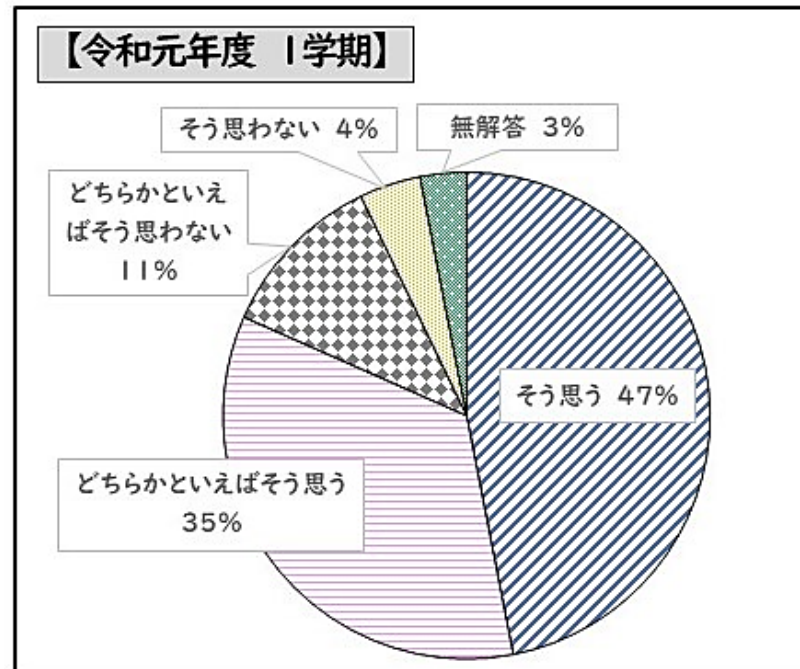
(2) 教科等とのつながりを意識した授業づくりによる成果

研究テーマである「主体的に学び、高め合う児童の育成」をめざし、各学年で、児童の実態や身に付けたい力について話し合い、創意工夫を凝らした取組みが活発に行われた。

また、既習事項や他教科等とのつながりを生かすことで、児童が「～したい」と高い意欲をもって取り組む姿勢が多く見られるようになり、特に、学んだことや考えたことをアウトプットする力を高めることができた。

さらに、授業アンケートでは、「新しい学習をするときに、これまでに学習したことや他の教科などで学習したことが役に立ったか。」という問いに対し、「そう思う」と解答する児童が10%増加し、57%となった。「自分の書いたものをもう一度見たい。」と既習事項とつなげようとしたり、「〇〇の授業と似てる」「つながってる」「次に〇〇に役立てたい」と、他教科等との関連を意識したりする姿が多く見られるようになった。

授業アンケート【新しい学習をするときに、今までに勉強したことや、他の教科で勉強したことが役に立った】



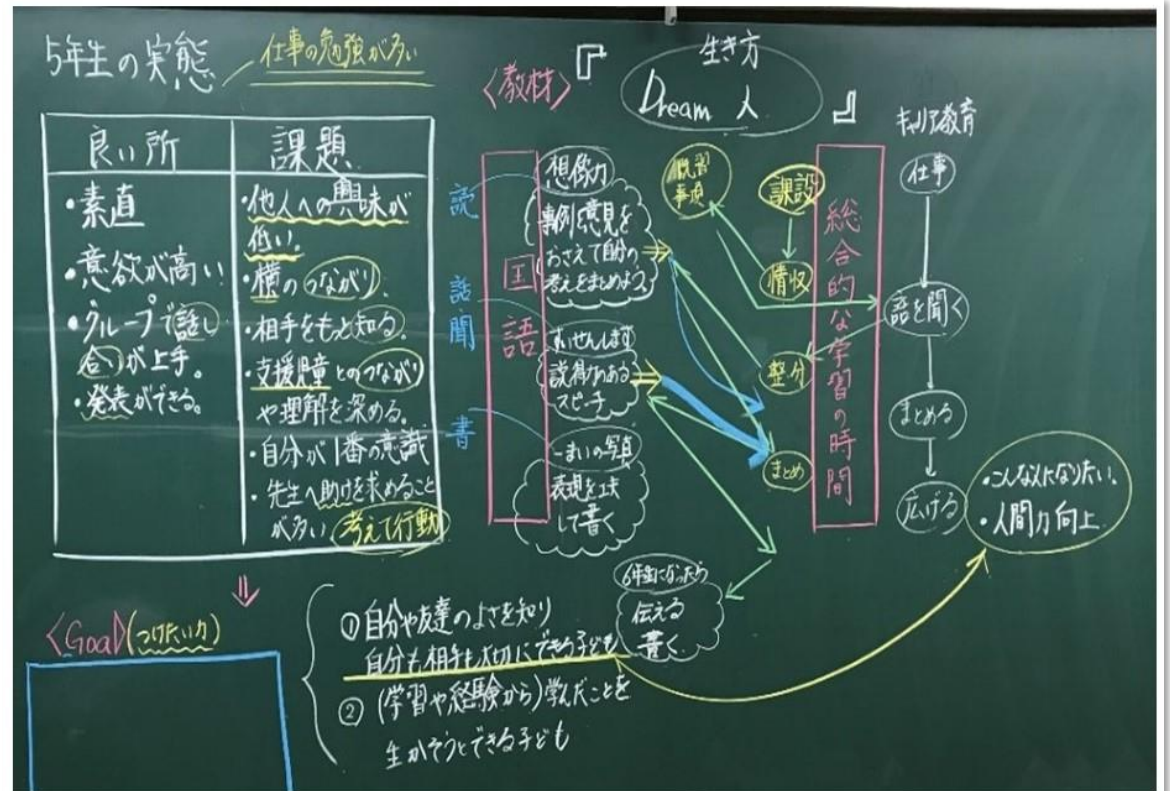
(3) カリキュラム表の改定、時数の見直しによる成果

教科間や行事と教科等の関連が明確化され、授業が計画しやすくなった。また、どの単元を関連づけるかを考えることで、見通しを持って学期ごとの学習計画を立てることができた。

さらに、予定時数を明らかにし、指導時数を意識しながら指導を行うことができるようになったことで、新型コロナウイルス感染症の影響によるカリキュラム変更にも柔軟に対応でき、児童の加重負担にならないように計画的に学習を行うことができた。

(4) 学年団での研究の活性化 (70人力)

各学年団で、「児童がもっと主体的に取り組めるようにしたい。」「○○に気づかせたい。」「○○な力をつけたい」と話し合い、教科書の内容に止まらず、既習事項や他教科等との関連に目を向け、創意工夫を凝らした取組みが活発に行われた。また、誰もが「つながり」を生かした学習計画を作成できるようになると、取組みごとに提案者を変え、これまでの実践を生かせるように支援するなど、学年団で支え合い、成長し合おうとする姿が見られた。



12月：5年生 学年会で取組みを振り返り、その成果を児童の実態から分析

(5) 今後の課題

◇ P D C A サイクルによる取組みによって、計画だけでなく、評価したり改善策を考えたりすることが重要であると共通理解できた。児童の姿からカリキュラムや手立てを評価するための観点や方法をより明らかにすることで、教師も児童も成果や課題を実感しながら研究を進められるようにしたい。

◇ 既習事項や他教科等のつながりを生かすために、各教科の目標への理解を深め、「何を学び、何ができるようになるか」、「次の単元でどのように生かせればよいのか」というゴールを明確にして授業をデザインしていきたい。

◇ 教師の考える学習の『ねらい』が、児童の「○○したい」「○○できるようになりたい」という思いの込められた『めあて』になるようにすることが、主体的・対話的で深い学びをつくりだすために重要であると共通理解できた。ひとりひとりの教職員の子どもを理解する力を高めるとともに、「○○したい」という思いを引き出すための手立てや、「○○したい」を実現するためのスキルについての研究をより進めていきたい。

◇ 各学年の P D C A サイクルによる取組みが、学校全体の研究を大きく前進させることができた。その一方で、各学年任せになってしまうことが多く、それぞれの学年の成果を生かしたり、支援し合ったりすることが十分ではなかった。学年間の交流や「見える化」の取組みをさらに進め、それぞれの成果や課題を生かし合い、高め合うことに引き続き取り組んでいきたい。